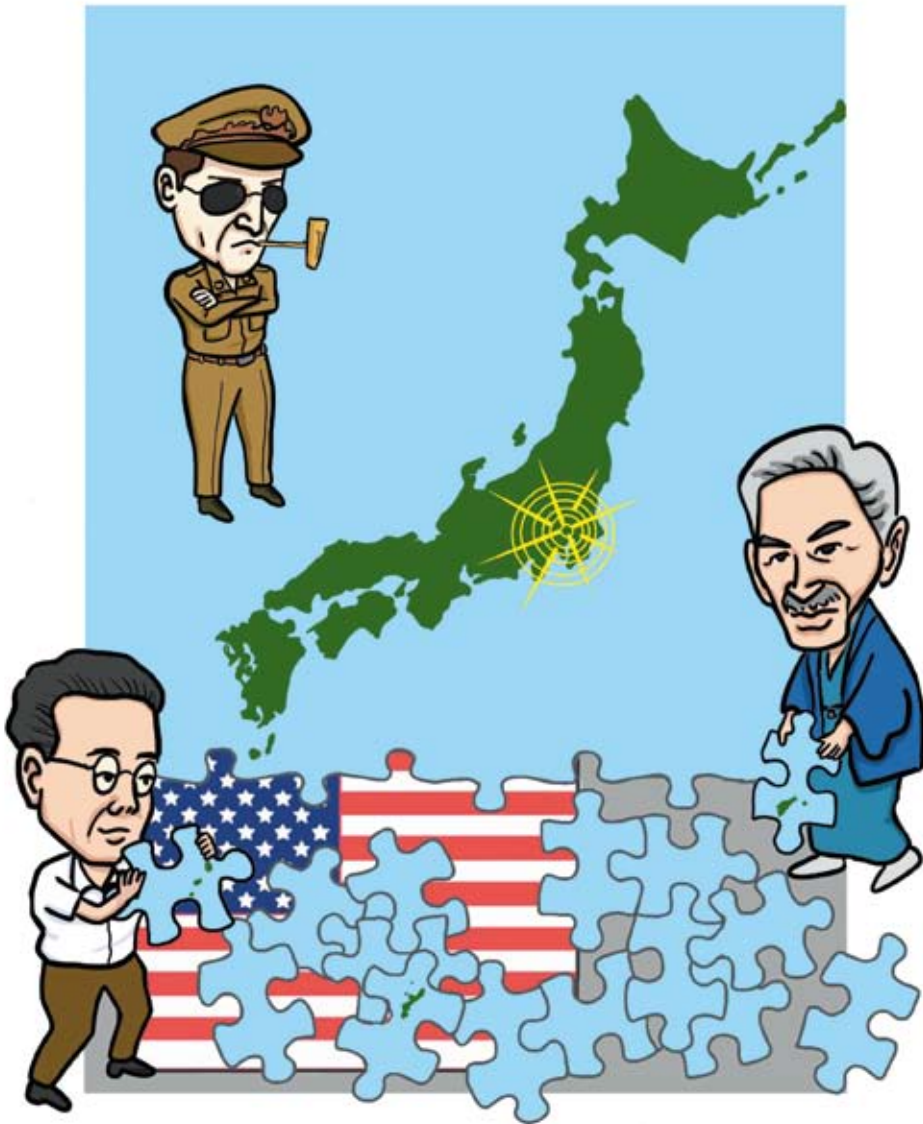


日本復帰60周年記念

東京における

日本復帰運動



平成25年7月

東京奄美会

しょうさつしはっかん 小冊子発刊にあたって

“世紀の民族運動”と云われた奄美の復帰運動の中で、東京を中心とした奄美出身者の果たした役割は実に大きい。

しかし残念ながら当時の写真や史料が乏しく書籍も少なく殆ど知られていない。

中央にあって現地奄美の斗いを常に支援激励し、これに呼応して本土でも祖国復帰を広く国民各層に呼びかけて国内世論を喚起し、国際的にも強く訴えて広範な国民運動にまで盛り上げ、これら内外に高まる声を背景に中央政府要路とかけあって、遂に民族の悲願「祖国復帰」を獲ち取った。

つまりそれは、中央舞台に於ける主役の役割であり、現地の斗いと共に復帰実現の二大原動力であった。

苦節8年—その間本土に在る14万の奄美同胞は打って一丸となり、文字通り寝食を忘れ、仕事をなげうって運動に没頭した。この斗いの中核になり母体となったのが、奄美連合であり、復帰対策委員会であり、復帰青年会や学生会であった。これは、元琉球新報東京総局記者で島さばくりライターの右田昭進さんが、昭和41年に出版された復帰運動記録（自書小冊子発刊に当たって）の冒頭で述べられた一節である。また師はこの中で、長期且つ困難を極めた奄美の復帰運動も今では語り草となったが、この厳粛なる史実は永く後世に伝えなければならないと述べている。



凡例 赤字＝東京中心の運動、青字＝現地奄美の動き、黒字＝世の中の動き

昭和20年

4月 米軍が沖縄に上陸し犠牲者が続出。戦況はますます困難を極めました。

～ 名瀬は大空襲を受け、市街地の91%が焼失しました ～



(写真提供：南海日日新聞社)

7月 沖縄守備軍が壊滅し、日本はポツダム宣言を受諾しました。

その直後、相次ぐ原爆投下により無条件降伏しました。

ポツダム宣言とは？

昭和20年7月17日、米、英、露の首脳がドイツ・ベルリン郊外にあるポツダムというところに集まり、日本に戦争をやめて降伏することをすすめたものです。

日本は、これ以上戦争を続けられないと判断して、これを受け入れて降伏しました。



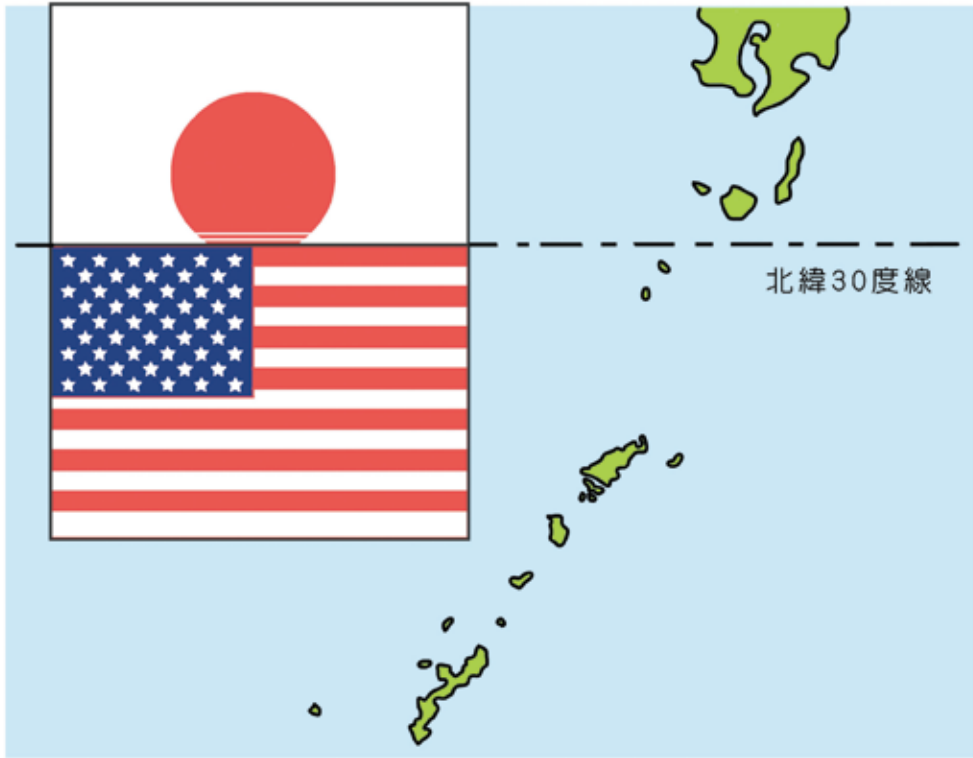
8月 **戦争が終結** (15日)

10月 戦争が終結し、昭和20年10月ごろから奄美と本土との交通が再開し、引揚げが始まりました。

昭和21年

2月 ひげきてき ぎょうせいぶんり 悲劇的な行政分離

れんごうぐんさいこうしれいぶ 連合軍最高司令部GHQが、日本の領域に関する指令りょういき しれいを発表！ (2.2宣言)

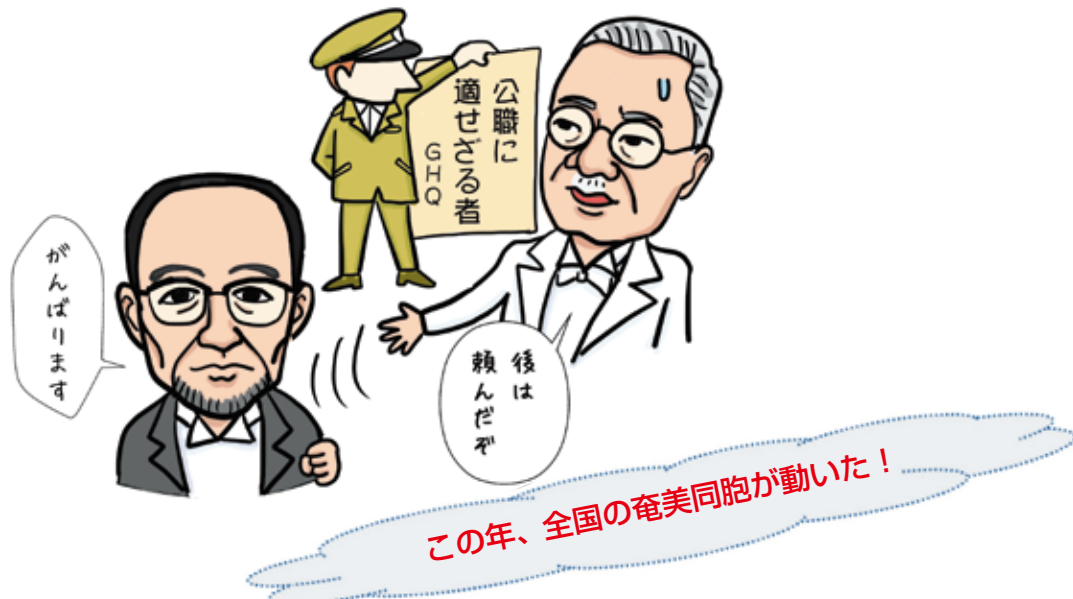


ほくい いなん なんせいしよとう 北緯30度以南の南西諸島は、日本本土から切り離され、米軍の統治下とうちかに入った。



6月 東京奄美会（在京奄美出身者の親睦団体）が復活！

戦前から37年間会長を務めた泉二新熊が、公職追放を受けて辞任したため、代わりに奥山八郎が就任しました。



9月 東京では、島の出身者が集まり、「東京奄美連盟」を結成。

奄美同胞の生活救済運動が始まった。



- ・身分証明書の発行
- ・軍服の払い下げ
- ・毛布や炊事道具の配給
- ・工場跡地に学生寮も作った

その後、神奈川、関西、鹿児島など、全国各地に様々な救済団体が続出し、戦災者や引揚者の援護や郷土との交通促進の運動を展開したが、中にはヤミ物資の横流しなどで不評を買うこともありました。



12月 東京奄美会でも“ただの親睦会では戦後の新しい時代に対応していけない”
と、全国的組織に一本化し、「奄美連合全国総本部」を結成した。総会には、「団結して激動混迷の世相をたくましく乗り切ろう！」をスローガンに、全国各地の団体代表40名余りが集まり、東京奄美会会長の奥山八郎が委員長を兼ねることになりました。



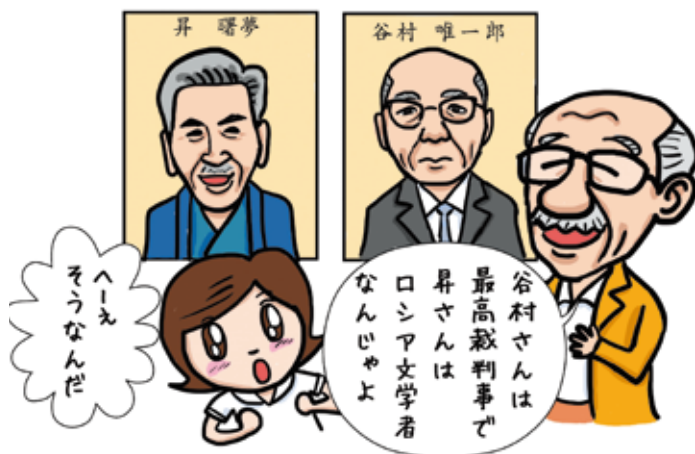
奄美連合全国総本部の発足に伴い、東京奄美会は連合東京本部となり、衆議員議員の伊東隆治が初代委員長になりました。しかしその後休会。

昭和22年

6月 奄美連合全国総本部と連合東京本部の合同総会が開かれ、役員改選で昌谷忠が両本部の委員長に選任された。

11月 在京の革新的な活動家を中心に、「奄美青年同盟」が結成されました。

12月 大阪で開かれた奄美連合全国臨時総会で、昌谷忠に代わり、連合総本部の委員長に昇曙夢が、また東京本部委員長に谷村唯一郎が選任されました。



昭和23年

9月 「奄美問題」で初の^{せいがんしょ}請願書

奄美連合全国総本部がマッカーサー司令部に、「奄美群島と日本本国内の交通、貿易、送金などの自由を許可するよう」請願書を送りました。

昭和24年

4月 国会で「奄美問題」が初論議
第5国会の参院本会議で、^{かわかみよしみ}川上嘉議員が「奄美大島との交通、通信、進学、送金等」の問題に^ふ触れました。



マッカーサー^{げんすい}元帥

昭和25年

2月 参院外務委員会でも伊東隆治^{きぞく}議員が「奄美の^{しつぎ}帰属と交通問題」の質疑^{しつぎ}を行いました。

奄美出身の両議院が国会で奄美問題を取り上げ、
国会内で”要求することは自由だよ”と容認されたことが自信となり、
その後の復帰運動を加速させる一つの契機になった！

その頃、東京から遠く
離れた宮崎で復帰運動の
ノロシが上がった。

^{ふっきがいとううんどう}
これが復帰街頭運動
の第一号である。



3月 「東京奄美学生会」が発足

こうえきぎよか かさいじゆんいち ありむらはるみね けいざいしきつだん
交易許可後、はじめて笠井純一、有村治峯ら、現地の経済視察団が上京し在京
奄美出身の学生たちと懇談しました。

3月 学生会が街頭署名運動を展開

東京奄美学生会が発足早々、新橋駅前など都内主要駅で45日間にわたり、
「奄美大島の復帰と渡航の自由」を訴えて街頭署名運動を展開しました。

これが復帰運動の口火となって燃え広がった！



写真は、新宿駅東口和田組マーケット跡地



6月 たいにちこうわじょうやく
対日講和条約の動き

ダレス代表が来日し、対日講和条約推進の動きが活発になりました。

11月 **奄美連合がマッカーサー司令官に初の復帰請願**

学生会にしよくはつ触発され、奄美連合内でも復帰対策の声が高まり、昇曙夢総本部委員長と谷村唯一郎委員長の連名で、マッカーサー連合軍最高司令官に対し、初の「復帰の請願」を提出しました。



GHQ



←マッカーサー元帥 執務室

昭和26年

1月 ^{こくむちょうかん}ダレス^{こうわしせつだん}國務長官を団長とする講和使節団が来日し、日本政府との間に^{こうわじょうやくこうしやう}講和条約交渉が始まりました。



昇曙夢と谷村唯一郎が、^{さんこうにん}参考人として^{さんいんがむいいんかいこうちやうかい}参院外務委員会公聴会で^{こうじゆつ}公述した。「奄美は歴史上も純然たる日本領土であり、^{じゆんぜん}行政区も^{りやうど}鹿児島県の^{ぎやうせいく}一郡であった」と強調し、^{いちぐん}内地帰属を訴えました。

2月 講和条約交渉開始と同時に、現地奄美で「日本復帰協議会」が発足
議長に^{いずみほうろう}泉芳朗が就任して、「^{しんたくとうち}信託統治反対」のノロシを上げた。



現地奄美でも学生たちが^{いっせい}一斉に立ち上がった



(写真提供：南海日日新聞社)

信託統治とは？

簡単に言うと、その地域はまだ自分たちの力で完全に自治を行うのは無理だから、非自治地域として、国連の監督下に置くこと。つまり、統治国であるアメリカの植民地にしようとしたんだね。カナちゃん、わかるかな？



3月 ダレス代表の条約草案発表に奄美同胞が憤激！
奄美と沖縄を分離すると規定した条項（第3条）が盛り込まれている事が判明！

4月 奄美連合東京本部委員長が交代
谷村唯一郎委員長が最高裁判事に就任したことにより、
金井正夫が委員長に就任しました。



5月

99.8%の復帰署名簿が横浜に上陸！

※10日間にわたり、^{たいにちりじかい}対日理事会、^{よしだそうり}吉田総理、^{しゅうさんりょういんぎちよう}外務省、^{しゅうさんりょういんぎちよう}衆参両院議長等、関係要路に対し、強力な^{はじょうちんじよう}波状陳情を行った。



署名簿到着を契機に東京での復帰運動が急速に展開！

6月

^{さんいん}参院で初の「^{りようどきぞく}領土帰属に関する決議」！

奄美連合全国総本部傘下に、復帰運動の推進母体である「^{ふっきたいさくいんかい}復帰対策委員会」を設置し、マ司令官やトルーマン大統領らに復帰陳情書^{ちんじようしょ}を送ることを決めた。

7月

「^{たいにちじょうやくそうあんしゅうせいかたせいがんしょ}領土問題に関する対日条約草案修正方請願書」を日本政府に発送しました。

～ 全国各地で100万人署名運動を展開 ～

名瀬市民総決起大会では、プラカードを^{てっきよ}撤去するように命令が下るなどの事件^{じけん}が発生しました。（プラカード事件）^{はっせい}



(写真提供：南海日日新聞社)

8月

みっこうちんじょうだん
密航陳情団が上京して復帰を直訴! じきそ

奄美の復帰を本土に直訴するため、現地奄美の密航陳情団11名が官憲の監視をくぐりぬけて枕崎などに上陸。

あいぜんご
相前後して東京で落ち合い、国会、政府、民間団体など関係要路に現地の窮状を説明、体当たり戦法で復帰を直訴、大きな反響を得ました。 きゆうじょう はんきよう



(写真提供：南海日日新聞社)



8月

あまみぐんどうにほんふっきようぼうしゅつしんしゃ
奄美群島日本復帰要望出身者

全国大会が2千余名の在京出身者を集め、新橋西口ステージで行われました。



8月 吉田首相が講和に臨む態度を表明

しかし、意味不明な答弁と政府の弱腰な対応に失望と憤激を感じました。
～ これに対し、信託統治止む無しとする主張もありました。 ～

- ◆一部諸島の信託統治は安価な代償だ。
- ◆民族感情は判るが、国際情勢や国の安危も考えるべきだ。
- ◆無条件降伏した以上、一部犠牲は忍べきだ。
- ◆経済価値の乏しい島の復帰は国の負担になる

9月 悲願むなしく講和条約調印

10月 "金井書簡"

復帰対策東京委員長の金井正夫は、現地の復帰協議会議長あてに、「(前文省略)条約3条は改廃(カイハイ)しなくとも、米国の一存で大島郡は返還できるから、条約3条撤廃(テツパイ)のスローガンは必要なく、復帰一本槍で進めるべき」との書簡を送った。

これを受けて現地の復帰協議会は、民族自決の運動として、あくまでも日本復帰を要求していく方針を確認した。

11月 青年が中核となって一大民族運動を展開しようと、在京奄美出身の青年学生が「復帰青年会」を結成。会長に山本忠義が就任しました。



～運動方針を巡って、保守派(消極論)と民族派(積極論)の意見が分かれ、白熱～
ひょうごだいひょう そうしきかいさんろん
兵庫代表からは組織解散論まで出ました。

12.5 十島村の下七島が日本復帰

昭和27年

4月

^{つうこん}痛恨の日、^{はっこう}講和条約が発効！

^{あまみどうほう}奄美同胞の^{ようぼう}要望もいれられず、

^{ちょういん}調印7ヶ月後に条約は発効し、

^{ほくい}北緯29度以南の^{いなん}南西諸島は

正式に米国の^{しせいけんか}施政権下に置かれた。

この調印で
奄美と沖縄は
正式に日本から
切りはなされる
ことになった



一方、現地では名瀬小学校校庭で

^{そこくどくりつきねん}「祖国独立記念、^{ふつきそくしんぐんみんたいかい}復帰促進郡民大会」

が開かれ、

条約発効の4.28を「^{みんぞくくつじょく}民族屈辱の日」としました。



5月

^{せんじゆつ}運動戦術を変更！

^{さんしゅう}都内三州クラブで開かれた復帰対策全国委員会で

「^{じょうやく}信託統治反対から^{じょうはいし}条約3条廃止」に方針を切り替えました。

～ 長期戦の構え ～

^{ぜんこくあまみどうほうそうけつきたいかい}全国奄美同胞総決起大会

^{たいしゅうどういん}新橋西口広場に大衆動員した3千余が^{さんしゅう}参集。復帰運動を^{うた}謳い大国民運動へ！

^{ひがんだっせい}「悲願達成の日まで^{とうそう}闘争をやめない」と力強く宣言しました。



～ 大阪府委員会が総本部に対し、全国奄美同胞決起大会で一部の過激分子による運動（自由、改進黨議員の演説妨害、アジビラ配布等）は、背信行為にあたるとして、断じて許し難く、善処しなければ脱会も辞さない旨の「左傾化警戒の進言書」を提出しました。 ～

こうした運動は国内各団体や労組にも波及し、国民運動として盛り上がっていった！

8月 昇曙夢委員長が統一団結を訴える！

三州倶楽部で開かれた奄美連合全国大会は大阪の進言書や兵庫の組織解散騒ぎなど白熱的議論で荒れました。

病苦を押して鎌倉から駆け付けた昇曙夢委員長が、新橋大会の事件は遺憾だが、異見のない運動は死んだ運動で、一大目的のため、小異を捨てて団結してもらいたい！と統一と団結を強調し訴えました。

この後、「信託統治反対と完全日本復帰の運動を継続していく」ことを決議しました。

東京奄美会青年会の一行が鎌倉で静養中の奄美復帰運動の師父、昇曙夢先生を見舞いました。



9月 おきよぶんりほうどう さいねん
沖与分離報道で復帰運動が再燃！

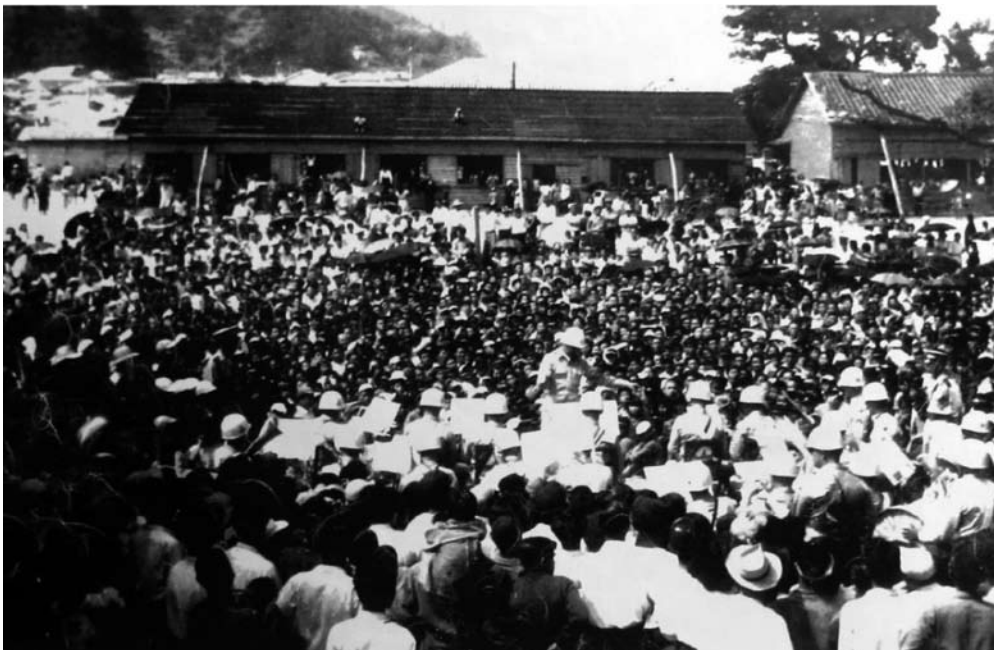
★おかざきがいしょう岡崎外相とちゅうにちたいしマーフィーかいだん駐日大使が会談し、復帰こういに好意を示したとNHKが報道。

★そのあと、マ大使が「おきよ沖与をへんかん除くこうりよちゆう返還を考慮中」と毎日新聞が報道。

このことが少し乱れ気味だった復帰運動全体に刺激を与え、
活性化の契機となった



現地でぶんりこうぎくんみんそうけつきたいかい「分離抗議郡民総決起大会」が開かれ、だんじきぎがん断食祈願やデモ行進が開かれた。



(写真提供：南海日日新聞社)

11月 旧鹿児島県大島郡完全復帰国民大会開催

9.3万人の第2次復帰嘆願書名簿たずさを携いえて上京した、泉芳朗いずみほうろう名瀬市長や村山家国むらやまいえくに、原口純治はらぐちじゆんじら現地郡民代表をみ迎え、三田の戸板女子短大講堂で歴史的な大衆集會が行われた。

12月 参院が奄美に関する特別決議



昭和28年

1月 東京の復帰青年会が、現地の復協と全郡各団体に対して、ぶんれつうんどう「分裂運動をやめよう」とアピールし非難ひなんしました。また革新的文化人かくしんてきぶんかじんを中心とする復帰問題懇話会こんわかいが、名称を「復帰促進会」に改め、国民的闘争こくみんてきとうそうを提唱ていしょうしました。

復帰対策委員会の“民族派”や復帰促進会、復帰青年会がバネとなって、その後の「民族自決の運動」の原動力となり、実働部隊の役割を果たした。

4月 復帰青年会主催しゆさいの「復帰促進の夕べ」が共立講堂きやうりゆうこうどうに4千人の会衆を集めて開催。(山本忠義委員長)

5月 東京復帰対策委員会の伊東隆治副委員長がルーズベルト夫人と車中で会談し、協力かいだんを要請しました。

6月 ●奄美婦連あまみふれんの婦人使節団ふじんしせつだんが上京して復帰陳情ふつきちんじやう（基八重子会長等）もとやえこ上京の折り、来日中のル夫人に奄美復帰を直訴おしました。

7/27 最後の復帰大会となった神奈川大会
瀬田神奈川委員長らの骨折りほねおで、「日本復帰全国大会」が神奈川県議会議場で開催され、運動強化のため奄美連合と復帰対策委員会を発展統合はってんとうごうして「復帰期成会全国総本部」ふつききせいかいぜんこくそうほんぶに改称かいしょうしました。

8/8

奄美同胞待望のダレス声明

韓国訪問の帰途日本に立ち寄ったダレス長官が突如奄美群島返還声明を発表。



運動もいよいよ大詰め！

8月 期成会がさっそく早期復帰の要望

ダレス声明後、直ちに外務省、南方連絡事務局、各政党本部や米国大使館など関係機関を訪問し、奄美全諸島の早期復帰を要望しました。

9月 復帰期成会は参院会館で臨時全国総会を開催し、会の名称を「復興促進会全国総本部」と改称、運動の目標を復帰から完全復帰促進に切り替え、日本政府や国会・県に対し、

「復興は全額国費・内閣直属の行政機関で」との要望書を提出。

10月 全国各地の青年会代表が神戸市に参集し、復興促進全国青年大会が開催された。



復帰直前の箱根での会議風景

奄美の日本復帰がダレス声明（昭和28年8月8日）によって決定的になり、奄美大島日本復帰協議会で奄美大島日本復帰祝賀の歌詞を募集しました。

61点の^{おうぼしゃ}応募者の中から「朝はあけたり」という^{よんせつ}四節からなる村山家国の歌詞が選ばれました。



【山田耕筰に作曲を依頼する場面】

左から、西田当元、村山家国、山田耕筰、勝又武、泉芳朗復帰協議会長

12/14 ^{へんかんにちべいきょうてい}奄美返還日米協定が調印

12/25 日本復帰が実現





昭和28年12月27日、^{こうじまち} 麴町の^{あまみや}「奄美家」で復帰を喜び合う復帰青年会の若者達

昭和29年

1月 27日、日比谷公会堂で復興促進会全国総本部と鹿児島^{きょうさい}の共催による「復帰祝賀国民大会」^{しゅくが}が開催され、「朝はあけたり」を全員で大合唱し、復帰万歳を叫んだ。



復帰悲願の歌「朝はあけたり」

6月 こうして^{あまみぐんとうふっこうとくべつそちほう}「奄美群島復興特別措置法」^{せいてい}が制定され、^{いま}今に^{つな}繋がっています。

喜びと安堵が漂う名瀬の商店街



“ぼうずあたま”と“おかつぱ”の子供達

付録1 東京を中心とした日本復歸運動（年表）

付録2 東京で日本復歸運動を牽引した主な人物

付録3 東京奄美会についてご紹介

東京を中心とした日本復帰運動(年表)

凡例 ◎：東京中心 ●：現地奄美 ★：世相

昭和20年

- 4/1 ★米軍沖縄上陸(犠牲者が続出、戦況は益々困難を極める)
～ 名瀬大空襲を受け、市街地の約90%が焼失
- 6/23 ★沖縄守備軍が壊滅
- 7/17 ★ポツダム宣言受諾
★原爆投下・無条件降伏
- 8/15 ★戦争が終結

昭和21年

- 2/2 ★悲劇的な行政分離
(連合軍最高司令部GHQが日本の領域に関する指令を発表→ 2.2宣言)
～ 北緯30度以南を分離、本土との渡航が全面禁止 ～
- 3/16 ●3/13、大島支庁内に軍政府を設置、3/16、米海軍の軍政下に置かれる
- 6/1 ◎東京奄美会が復活(泉二新熊会長から奥山八郎会長へ)
- 7/1 ●名瀬市制施行(名瀬町から名瀬市となる)
- 9/4 ◎東京奄美連盟を結成し奄美同胞の生活救済運動が始まる
～ 神奈川、大阪、鹿児島など全国に様々な救済団体が続出。
運動を展開する中でヤミ物資の横流しなど不評も買った ～
- 12/8 ◎全国統一組織に一本化するため奄美連合全国総本部を結成(中央執行委員長に奥山八郎が暫定就任)

昭和22年

- 3/2 ★大阪でも連合大阪府本部を結成
- 6/22 ◎奄美連合総本部と東京本部の合同総会開催(昌谷忠が二代目委員長に就任)
- 8月 ●大島郡内の市町村長会は日本復帰嘆願を決議し、口頭で軍政府長官に伝える
- 10/16 ●郡政府が集会、言論、出版の自由を規制
- 11月 ◎東京奄美青年同盟結成
◎東京奄美会が自然休会となる中、親睦を目的に有志による「三水会」が誕生した
- 12/12 ◎奄美連合全国臨時総会が大阪で開催され、昇直隆(以下、曙夢)が三代目委員長に就任

昭和23年

- 6/19 ●2名の教師が教育関係図書の購入のため本土へ密航
- 9/2 ◎奄美連合全国総本部が、奄美群島と日本本国間の交通、貿易、送金等の自由を許可するよう、初の「自由交易許可嘆願書」をマッカーサ司令部へ提出

昭和24年

- 4/5 ◎国会で「奄美問題」が初論議(参議院本会議で川上嘉議員)
- 12/25 ◎昇曙夢、「大奄美史」を刊行

昭和25年

- 2/13 ◎国会で「奄美問題」について質疑(伊東隆治議員)
- 2/17 ★宮崎で復帰運動のノロシ上がる
- 3/24 ◎現地奄美の経済視察団(笠井純一、有村治峯ら)が上京し在京奄美出身の学生たちと懇談。
これがもとで東京奄美学生会を結成
- 4/6 ◎東京新橋駅前街頭署名運動展開(復帰と渡航の自由を求め)
- 6/21 ◎ダレス代表が来日するなど、対日講和条約の動きが活発化、奄美連合でも復帰対策の声強まる
- 11/15 ◎奄美連合が、昇曙夢と谷村唯一郎の連名でマッカーサ連合軍最高司令官に対し、初の「復帰請願書」を提出
- 10/25 ●奄美群島政府開設

昭和26年

- 1/25 ★ダレス国務長官を団長とする講和使節団が来日
- 2/6 ◎参院外務委員会の公聴会で、昇曙夢(露文学者)と谷村唯一郎(最高裁判事就任直前)が参考人として「奄美の帰属問題」について公述した

- 2/14 ●現地奄美で社会民主党を中心に労組、青年団、婦人会など三二団体代表が結集し、「奄美大島日本復帰協議会」を結成。泉芳朗が議長に就任
- 2/19 ●奄美郡内で復帰署名運動始まる
- 2/22 ★参院で経済・交通円滑化の決議
- 3/31 ★ダレス代表が講和条約草案を発表
- 4/14 ◎奄美連合東京本部委員長が交代(谷村唯一郎から金井正夫へ)
- 5/12 ●99.8%の復帰署名簿が横浜港に上陸。
◎これを契機に東京での復帰運動が急速に進展
- 6/2 ★旧日本領土である諸島の帰属に関する決議案が国会で採決
- 6/24 ◎連合総本部の傘下に全国を統一した復帰運動の推進母体となる**復帰対策委員会**を設置した(委員長に昇曙夢、副委員長に金井正夫が就任)
- 7月 ★全国各地で百万人署名運動展開
- 7/13 ◎講和条約草案が日本政府から正式に発表されたのに対し、奄美連合全国総本部と奄美群島復帰対策委員会は連名で、領土問題問題に関する対日講和条約草案修正方を請願【航空便で発送】
- 7/19 ●第1回日本復帰郡民総決起大会が名瀬市で開催され、陳情団の派遣を決定
- 8/1 ●泉議長の高千穂神社での120時間断食決行(8月1日～5日)
- 8/7 ●第1回決死の本土密航陳情団が枕崎に上陸
- 8/9 ●郡内各地での集団ハンスト(8月6日～7日)
- 8/10 ◎在本土出身者二千余名が新橋駅西口ステージに参集し、東京で初の「奄美群島日本復帰要望出身者全国大会」が開催
- 8/14 ●現地の密航陳情団十一名が上京して現地の窮状を説明、大きな反響を得る
- 8/16～20 ◎講和全権に百万人署名簿を提示して条約調印阻止を強く訴える
～ ★吉田総理の講和に対する弱腰態度に現地代表は失望と憤激 ～
- 7/13 ●名瀬市民総決起大会(プラカード撤去命令(プラカード事件))
- 9/8 ★講和条約署名阻止の働き掛けもむなしく南西諸島の条項を盛り込んだ条約は調印された
～ 北緯29度以南はそのまま分離(講和条約第三条の中に「信託統治」の条項が織り込まれている) ～
- 10/10 ◎現地の民族自決の運動に歩調を合わせ東京も組織強化の方針を決議した
- 10/12 ◎復帰対策東京委員長の金井正夫は現地の復帰協議会長宛てに「米国の一存で大島郡は返還できるから条約三条撤廃のスローガンは必要なく復帰運動一本槍で進めるべき」との書簡を送った
- 10/15 ◎東京の復帰対策委員会は批准国会と外務省に対し、信託統治提案を保留するよう、また本土旅行や居住の自由などを強く要望した
- 11/10 ◎奄美大島日本復帰青年会が発足
- 11月 ～ ◎条約調印後運動も中だるみ、保守派(消極論)と民族派(積極論)で論議が白熱・紛糾した ～
- 12/12 ◎加世田名瀬市長他七名の視察団が上京し、郷土復帰運動への支援を訴えた
- 12/15 ◎復帰青年会は機関紙「奄美大島時報」を発刊。編集は松田清氏
- 12/25 ◎革新派の川上嘉や龍野定一氏が復帰運動を一大国民運動に拡大強化しようと「復帰問題懇話会」を発足

昭和27年

- 元旦 ◎**復帰青年会**が、都内主要駅前では喪章づきの日の丸を立てて二回目の街頭署名運動を展開した
- 4/1 ●奄美群島政府を廃止、琉球政府発足
- 4/28 ★「痛恨の条約が発効」
調印七か月後、条約は発効し、北緯二九度以南の南西諸島は正式に米国の施政権下におかれた
- 同日 ◎参院会館で復帰対策委員会、復帰問題懇話会、復帰青年会、神戸婦人会の代表が参加し、信託統治反対の基本方針を確認した
- 4/29 ◎名瀬小学校校庭で「祖国独立記念・復帰促進郡民大会」が開かれ、条約三条撤廃請願を決議した

- 5/13 ◎都内三州クラブで開かれた復帰対策全国委員会で「信託統治反対から条約三条廃棄」運動に切り替える方針を決定した
- 5/28 ◎新橋西口広場で三千余が参集し、**全国奄美同胞決起大会**が開催された
- 6/16 ◎日教組も奄美の復帰を決議
- 8/11 ◎先に行われた新橋大会の事件を受けて、昇曙夢委員長は「**一大目的のため、小異を捨てて団結してもらいたい**と」訴えた
- 9/26 ★NHKが岡崎外相とマーフィー駐日大使が会談し、復帰に好意を示したことを報道
- 9/29 ★マ大使が「**沖与を除く返還を考慮中**」と毎日新聞が報道したことで復帰運動が再燃
- 10/1 ◎沖永良部で第1回二島分離絶対反対運動展開、断食祈願、陳情団派遣決定
- 11/17 ◎鹿児島県知事がマ大使に請願書
- 11/25 ◎全国復帰対策委員会は吉田首相に対し、「**大島郡行政権回復と実質復帰**」を要請
- 11/30 ●**泉芳朗名瀬市長や村山家国らを現地住民代表を迎え、戸板女子短大講堂で「旧鹿児島県大島郡完全復帰国民大会」**が開催された
- 12/25 ◎衆院が旧日本領土復帰決議の中で、奄美問題だけを分離してとりあげ奄美に関する特別決議をした

昭和28年

- 1/15 ◎東京の復帰青年会が、現地の復協と全軍各団体に「**分裂運動をやめよう**」とアピールし非難した
- 1/16 ◎革新的文化人を中心とする**復帰問題懇話会**が、名称を「**復帰促進会**」に改め、国民的闘争を提唱。
※復帰対策委員会の“民族派”や復帰促進会、復帰青年会左バネとなってその後の「**民族自決の運動**」原動力となり、実戦部隊の役割を果たした ～
- 4/28 ◎復帰青年会主催の「**復帰促進の夕べ**」が共立講堂に4千人の会衆を集めて開催
(山本忠義委員長)
- 5/31 ◎東京復帰対策委員会の伊東隆治副委員長がルーズベルト夫人と車中で会談し、協力を要請
- 6/12 ●**奄美婦連の婦人使節団**が上京して復帰陳情(基八重子会長等)上京の折り、来日中のル夫人に奄美復帰を直訴
- 6月 ◎衆参両院で奄美復帰の質疑が相次ぐ(条約三条撤廃や実質復帰の論議や奄美だけの復帰要求は現実的)でないとの主張も。
- 7/7 ◎衆院で三回目の復帰帰属決議
- 7/10 ◎総評が奄美などの日本復帰要求を決議
- 7/27 ◎瀬田神奈川委員長らの骨折りで、「**日本復帰全国大会**」が神奈川県議会議場で開催され、運動強化のため奄美連合と復帰対策委員会を発展統合して「**復帰期成会全国総本部**」に改称
- 8/8 ◎**奄美同胞待望のダレス声明**
※韓国訪問の帰途日本に立ち寄ったダレス長官が突如奄美群島返還の声明を発表
- 8/10 ◎期成会は早速**早期復帰の要望**
外務省や米国大使館など関係機関を訪問し謝意を表明
- 9/6 ◎期成会は復興促進会全国総本部と改称、運動の目標を復帰から完全復帰促進に切り替えた
- 9/7 ◎復興促進会総本部は、日本政府や国会・県に対し、「**復興は全額国費・内閣直属の行政機関で**」との要望書を提出
- 10/18 ◎全国各地の青年会代表が神戸市に参集し、復興促進全国青年大会が開催された
- 12/25 ★**日本復帰が実現**

昭和29年

- 1/27 ◎日比谷公会堂で復帰祝賀国民大会が盛大に開催され、「**朝はあけたり**」を全員で大合唱し、**復帰万歳**を叫んだ
- 6/21 ◎「**奄美群島復興特別措置法**」が制定された

東京で日本復帰運動を牽引した主な人物

◎泉二 新熊	大審院院長（最高裁長官） 枢密院顧問官	龍郷町中勝出身
◎奥山 八郎	裁判所判事、日本弁護士連合会会長	徳之島町亀津出身
◎伊東 隆治	衆議院議員、参議院議員	龍郷町秋名出身
◎昌谷 忠	フィンランド特命全権公使（外交官）	瀬戸内町管鈍出身
◎昇 曙夢	陸軍士官学校教授、ロシア文学者	瀬戸内町出身
◎谷村唯一郎	最高裁判所判事、日本弁護士会会長	名瀬出身
◎川上 嘉	参議院議員	龍郷町戸口出身
◎金井 正夫	衆議院議員、和歌山県知事	龍郷町浦出身
◎山本 忠義	日本弁護士連合会会長	喜界町大朝戸出身
◎瀬田 良市	湘南病院理事長	瀬戸内町瀬相出身

東都の中央舞台上で郷土の復帰運動や復興促進に奮闘された先人達



前列左より、
池田池秀、昇昌利、川畑清、山本忠義、沖久中信、蘇我四郎、岩切登、豊千里、武山初枝、川畑喜美子、安藤克枝、（右田記者）
2列目左より、
安田重雄、**、龍野定一、金井正夫、奥山八郎、篠原純治、（武山社長夫妻）、大島直治、谷村唯一郎、山下長、亀岡幸知、伊東隆治
後列
西田当元、松永宮生、沖利秀、重信すなお、勝友武、大山迪允、恵稲良、榊純義、登山俊彦、山本忠太郎、川上嘉、松元光三、徳地久夫、長谷場純熊、岡泰助、榊山喜美信、森文明、西村良男、児玉祐典、柳田豊茂、赤地利春、山元正宣、泉二多賀丸、長田廣、三島利正、松元正三、白坂直悦、山元速雄、大欣御門憲熙、森生新市蔵、宗前清、安岡富吉、兼光清信夫妻、豊島豊氏らの顔も見れる。
～鹿児島島の旬刊「奄美」の武山社長夫妻の年祝いに集まった時の写真～

東京奄美会についてご紹介

【東京奄美会とは？】

東京奄美会とは、首都圏に在住する郷土出身者およびその縁故者の集まりである郷友会（きょうゆうかい・旧13市町村会）の連合体組織です。会員数は正確には把握できていませんが、名簿上は1万数千人が登録されています。島の出身者であれば、誰でも入会資格があり、いつでも入会できます。希望者は各郷友会の事務局にお気軽にご相談ください。

【目 的】

東京奄美会は、会員相互の親睦向上と郷土の発展に寄与することを目的としています。

【活 動】

①東京奄美会は、毎年1月に新年賀詞交歓会と、秋に総会（隔年で芸能祭または大運動会）を行っております。

※各郷友会の会員であれば、東京奄美会の企画する行事に参加することができます。

②毎年1回、13市町村毎に郷友会並びにその子会（校区会、集落会等）が総会・懇親会等を開催しております。

③青年部と女性部は毎年、数回の様々なイベントを実施しております。

④文化広報部は毎年6月ごろに文化講演会を開催しております。

※東京奄美会では、各郷友会内および郷友会間の親睦交流並びに部活動の活性化、そしてふるさと奄美との交流促進を図るための支援ツールとしてHPを立ち上げ、情報の共有化を図っております。各市町村の企画課と東京奄美会の各郷友会の担当者との間で逐次情報交換を行い、東京奄美会のホームページ（HP）でその情報を紹介しています。

【^{かい はじ}会の始まり】

東京奄美会は、明治32年（1899）1月、^{うえのしのぼずちほん}上野不忍池畔の「^{いんしょうてい}韻松亭」で東
大生^{もとしんぐま}の泉二新熊氏、ニコライ^{せいぎょうしんがっこうせい}正教神学校生の^{のぼりなおたか}昇直隆（^{しよむ}曙夢）氏らの^{はつあん}発案で
奄美出身者に呼びかけ5～60人が^{つど}集い新年会を開いたのが始まりです。
^{だいせんばいたち}大先輩達のご努力により^{いくた}幾多の^{くなん}苦難を^の乗り越え^こ爾来^{じらい}115年という長い歴史
を刻んで今日に至っております。

【^{きょうゆうかいやくいんいちらん}郷友会役員一覧】

平成25年5月現在

東京喜界会	〔会 長〕 友田 英助	〔幹事長〕 福岡 和文
東京笠利会	〔会 長〕 郡 富士義	〔幹事長〕 本田 英頼
東京龍郷会	〔会 長〕 重山 忠資	〔幹事長〕 碓山 隆宏
東京名瀬会	〔会 長〕 徳岡 辰寛	〔幹事長〕 川崎 末一
東京住用会	〔会 長〕 野沢 有得	〔幹事長〕 和田 霜析
関東大和会	〔会 長〕 奥田 義光	〔幹事長〕 池田幸一郎
関東宇検村会	〔会 長〕 徳田 末廣	〔幹事長〕 瀬川 耕司
東京瀬戸内会	〔会 長〕 福原 修	〔幹事長〕 義田 忠満
関東徳之島町会	〔会 長〕 堀田 統	〔幹事長〕 川畑紀代視
関東天城町会	〔会 長〕 松林 純子	〔幹事長〕 里村 哲正
関東伊仙町会	〔会 長〕 平山 徳廣	〔幹事長〕 本田 守
東京冲洲会	〔会 長〕 竹林 學	〔幹事長〕 秋田 直登
東京与論会	〔会 長〕 竹内 英健	〔幹事長〕 福納 敏郎

※各郷友会の配下には、複数の子会（校区会、集落等の集まり）があります。

◇役員

- 顧問（執行部会長経験者）
堀江元文二、田中達三、佐藤持久
- 参与（執行部幹事長経験者）
中田初男、西 榮四郎、林 延宏、稲留保久、山下心一、米崎七郎
東 英雄、小勝竹雄、豊島敏夫
- 相談役（郷友会会長経験者）
孝志 實、佐々木国雄、大江修造、久保倫子、屋島範光、福原輝義、碓永光弘
三島章義、向井美也、大吉平造、永田一男、今榮俊一郎、竹本 登
- 評議員（郷友会顧問）
上原康治、徳 正輝、和田純男、芝 慶輔、永山和光、安田直道、宝村晃永
勝 睦男、前田好美、土岐邦成、岡村隆文、大里哲二、我謝みどり
- 監査役（郷友会会長経験者）
手島義人、芝田稔秋、稲村義雄
- 副会長（各郷友会の現会長） 前述
- 幹事（各郷友会の現幹事長） 前述

◇執行部

- | | | |
|----------|-------|-------|
| ○会長 | 英 辰次郎 | (喜界) |
| ○幹事長 | 藤井 壮望 | (天城) |
| ○会計長 | 樺山 博昭 | (伊仙) |
| 副会計長 | 大山 安則 | (沖洲) |
| ○事務局長 | 中濱 寛 | (名瀬) |
| ○文化広報部長 | 池田 秀秋 | (名瀬) |
| 文化広報部副部長 | 外内 真一 | (喜界) |
| 文化広報部副部長 | 里山 洋男 | (笠利) |
| ○青年部長 | 吉見 修 | (伊仙) |
| 青年部副部長 | 吉山 稔 | (喜界) |
| 青年部副部長 | 高田 秀輝 | (名瀬) |
| ○女性部長 | 中井 良子 | (宇検) |
| 女性部副部長 | 田川ホズ工 | (大和) |
| 女性部副部長 | 五十嵐千代 | (与論) |
| 《副幹事長》 | | |
| 会計担当 | 大司 恵男 | (龍郷) |
| 青年部担当 | 福 晃尚 | (住用) |
| 事務局担当 | 森山 純一 | (大和) |
| 文化広報部担当 | 坂井 正道 | (宇検) |
| 文化広報部担当 | 山田幸一郎 | (瀬戸内) |
| 女性部担当 | 重久 正光 | (徳之島) |
| 青年部担当 | 住 信治 | (天城) |
| 女性部担当 | 勝 光重 | (伊仙) |
| 文化広報部担当 | 遠山 浩光 | (与論) |

東京奄美会日本復帰 60 周年記念実行委員会

○会 長	英 辰次郎
○会長補佐	豊島 敏夫
○統括委員長	藤井 壮望
○財務局	樺山 博昭
○事務局	中濱 寛
○大会式典委員長	米崎 七郎
○大会広告委員長	花岡 正美
○大会広報委員長	池田 秀秋
○大会芸能委員長	小勝 竹雄
○舞台監督	惠原 睦男
○事業運営委員長	吉見 修

◆記念祝賀行事

- 日本復帰 60 周年東京奄美会総会・式典並びに文化芸能祭
平成 25 年 10 月 6 日 (土) 渋谷公会堂にて開催



東京奄美会文化講演会「特別記念講演」集合写真
(平成25年6月8日 四ツ谷) 主婦会館にて

←講師：右田昭進先生
“裏話や当時の様子を熱く語っていただきました”

へん しゅう こう き 編 集 後 記

戦後わが故郷は、日本本土から切り離され米軍の統治下に置かれました。

遠く離れた東京で島の出身者たちがいち早く立ち上がり、やがて現地奄美と一緒に、苦節8年を闘い抜いた末、ようやく祖国復帰を果たしました。

復帰後、わが故郷は「奄美群島復興特別措置法」という手厚い法律の保護のもと、島の行政・住民たちの弛まぬ努力によって見事復興を成し遂げました。

東京奄美会では、日本復帰60周年という節目の年に、これまで地元住民の方々に殆ど知られていなかった「東京における日本復帰運動」の話を、ぜひ島の皆様や、特にこれから島の将来を担っていただく若者たちに伝えたく、地元における復帰運動と重ね合わせて一つの小冊子に認めました。

「地元と本土の奄美出身者が力を合わせればどんな夢でも叶う」と云う史実から学び得た貴重な体験を、ぜひ次の時代に活かしてほしいと願っております。

小学5年生の「カナちゃん（登場人物）」には少し難しい話だったかもしれませんが、解らないところは島のおじいちゃん達に聞いてしっかり勉強してください。また東京にはその当時、郷土愛に満ち、しかも日本を代表するような先輩たちが大勢いたことも忘れず、それを島の誇りに思っ頑張ってほしいと思います。

発刊にあたっては、当時のことを語る数少ない人財である右田昭進氏に師事を仰ぎ、また制作にあたってはシマで活躍するイラストレータの“あいきじゅん”さん（榊原範親氏）を始め、貴重な写真や情報をご提供いただきました南海日日新聞社や奄美群島広域事務組合の皆様、その他島内外多くの先輩諸兄、関係各位のご協力に深甚なる感謝の意を表します。

東京奄美会

大会広報委員長 池田 秀秋

大会広報委員 外内 真一、里山 洋男

坂井 正道、遠山 浩光

これからの奄美



東京における日本復帰運動

発行日 平成25年7月吉日
発行 東京奄美会 会長 英辰次郎
編集責任者 東京奄美会大会広報委員長 池田秀秋
イラスト制作 「あま美デザイン工房」 あいきじゅん
瀬戸内町清水90-1 ☎090-4993-3903

参考文献 タイトル
「内外奄美同胞40万の団結力・
郷土愛・知の結集で日本復帰は実現した」
著者 島さばくりライター 右田 昭進

企画・印刷 株式会社 昭和広告社
千葉市中央区道場北2-17-7
TEL.043-225-4111 FAX.043-225-4115

東京奄美会ホームページ
<http://www.tokyo-amamikai.com/>